

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第66号

発行：2019年3月5日
発行者：浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-1360

春季彼岸会並びに永代経法座

日時 3月26日(火)

ご講師 堀 靖史師(志和東 光源寺副住職)

朝席 9時～11時頃

昼席 13時～15時頃

第89回歎異抄輪読会

日時 3月14日(木) 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

★ 磯松天龍寺墓苑合同墓春彼岸法要

日時 3月21日(木) 15:00～16:00

※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。
但し、天龍寺墓苑合同墓での参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

☆ 天龍寺仏教壮年会例会 3月31日(日) 19:00～20:30

ダーナ募金活動のお礼

昨年同様に、ダーナ募金活動にご協力・ご支援等を賜りました事、書面をお借りしまして厚く感謝申し上げます。ご寄付いただきました浄財は、仏教婦人会総連盟事務局を通じてユニセフ、あしなが育英会等また災害見舞金に、志和、八本松地区の福祉施設等に寄付をさせていただきますことをご報告させていただきます。

天龍寺仏教婦人会法座並びに演奏会のご案内

日時 4月14日(日) 10:00~15:00頃

ご講師 前田 純代 師(広島市西区 善法寺坊守)

演奏者 小玉友里花(声楽)・橋川 亮(ピアノ)

日程	10:00	法要(讃仏偈)、初参式	13:00	追悼法要(仏説阿弥陀経)
	11:00	演奏会	13:30	法話(2席)
	11:40	昼食	15:00	法要終了予定

演奏者プロフィール

声楽 小玉友里花

見真学園広島音楽高等学校卒業 東京芸術大学声楽科を首席で卒業
同大学院修士課程修了 平成26年に皇居内桃華楽堂にて御前演奏会
第84回読売新人演奏会出演 現在東京芸術大学博士課程に在籍

ピアノ橋川 亮

見真学園広島音楽高等学校卒業 東京音楽大学ピアノ演奏家コース・同大学院卒業
広島交響楽団競演 日本クラシック音楽コンクール第3位入賞
現在、東京にて自作曲200曲以上手がけるコンポーザーピアニストとして活躍

人生も色々と感じさせていただいております。(I)

ご縁とは不思議な物で、ご縁がなければいくら近隣に住んでいても言葉も交わさずこの一度人生を終える事もあれば、遠くにいる方でもご縁があれば言葉を交わす等、深い関係をいただくことがあると思います。その意味から思いますに、ご縁とは理屈を超えた所にある物と還暦を過ぎしみじみ感じる事であります。

勤務していました学校を平成22年に早期退職させていただき、早いもので10年を迎えました。当山はお寺ですので、この9年間の中に多くの悲しいご縁、すなわちお葬儀のご縁をいただきました。一番若い方で7歳の方があり、一方で一番ご高齢の方は102歳でした。また、毎年10代、20代、30代、40代の方のお葬儀があります。

謙遜ではなくとても感性が鈍い人間ですが、今申しました様に若い方のお葬儀のご縁に会わせていただきますと「何故、この様に若くしてこの世を去っていかなくてはならないのか。」等と自分なりに問う事もあります。

しかしながら、当然答え等ありません。ただ、この世は無常の世界であり、限りのある世界に生を受け生きているのだと痛感させていただく事でもあります。

さらに話は展開しますが、私はこれまで花を見ます時には、つつい花が咲いているときばかりに気を取られていました。しかし、よく見ますと花を咲かすことなく蕾のままで散っていく命もあれば、蕾になる前に枝木こと強風などにあおられ散っていく命もあると思う事もあります。さらに枯れて散っていくはずなのに枯れた状態で花びらが枝にくっついていることもあります。この様な花の命を見ていますと、あらためて人間の命も自然界の営みの如く、お気をくされましたらご理解をいただければありがたいと存じますが、散り方は様々だと感じる事であります。

また、この点も私なりに還暦を過ぎ感じていることではありますが、比較の世界に生を受けた故に、物心ついたころから勝った・負けた、得した・損した、仕事ができる・仕事が出来ない、役に立つ・役に立たない等の評価にいつも翻弄され、一方でその様な評価におびえながらの人生を過ごしていかなくてはならない宿命と申しましょうか、その様な定めの中での人生であると思う事です。さらに私の様に退職し、勝った・負けた、得した・損した、役に立つ・役に立たない等と振り回されていた世界から少し解放されましても、自分自身の身体が「腰が痛い・手があがらない・膝が痛い」等と常に身体はどこかに痛み等を抱え、日々衰えていく自分を鑑みますと限りのある自分であるために日々身体が衰えていくと理解をしておりますながら何とか健康を維持しようと努めている自分であり、言葉を代えますと自分の身体の事等に振り回されながら生きている自分を思う事でもあります。重ねて申しますが、退職するまでは勝った・負けた、得した・損した、役に立つ・役に立たない等の価値観に翻弄され、歳を取りますと今度は自分の健康等に翻弄され、ある意味一生様々な物に翻弄されながら生きていかなくてはならない高飛車な言い方になりますが、哀しい存在であると近頃感じる事でもあります。

私には、3人の子どもがありますが、「子どもが学校を卒業し社会人になり、子どもに手がかからなくなればどんなにか楽になるだろうかと子育てしているときに度々思いましたが、いざ手が離れましても全然楽にならない自分に気付く事もあります。」

お釈迦様が、菩提樹のもとでお悟りをされ、お弟子に「この世は苦である。」とご説法をされました。「苦とはこの境涯は自分の思い通りにならない故に苦」と言われたことでもあります。還暦を過ぎお釈迦様が言われました「この境涯は自分の思い通りにならない境涯である。」という言葉で60年近く生きて来た中で実感することでもあります。

これからの自分の人生を想像しましても、「あそこが痛い・ここが悪くなった・入院することになった。」等と言いながら、気がつけば自分の人生の終焉を迎えているのかもしれない。その意味をふまえ思いますに、自らの娑婆の縁が切れるまで、苦悩の人生を歩む存在であるとも思う事でもあります。

最後に、当山に100年近く経つ桜の木があります。苔が生え、枝木は様々な所で折れており、人間に例えたならば瀕死の状態かもしれません。しかし、毎年古木ながら精一杯の花を咲かせております。たくさん花をつける歳もあれば、例年になく花が少ない年もあります。その時その時の花を咲かされなす事を念じ申し上げるしだいです。

年代・環境によって花の色・大きさ・咲き方等、様々であると思いますが、みなさまには日々自分の願い・思いとはかけ離れたご縁の中で、その日その日のご縁の中で精一杯の花、命の輝きを放たれます事を念じ申し上げ拙い私のお話にて代えさせていただきます。